



# SUZUKI GS1000

▲基本的に、GS750とフレームを共通として製作されたのがこのGS1000。現車は北米仕様の78年モデルで、キャブレターやマフラー、ブレーキなど、発売当時に定番だったカスタマイズが施されている。ホイールリムはアルミ製（F19X1.85 R18X2.50）だ。キャストホイール仕様は軽量化のため、リヤを17インチとサイズダウンしていた。

当時流行のカスタマイズが施されたまま残存するスポーク仕様。



①②GS1000は、キャリバーが異なり、2ピースのものとなっている。加えて同年式の750は、マスターとキャリバー間がパイプ&ホースの接続なのに対し、1000ではホース接続となっているため、コントロールが楽だ。チェーンもRKと共同開発のプッシュチェーンを採用していた。サイズは630。なお、タンデムステップは同年代のスズキ車に共通する仕様だが、79年式よりクッション製が高い角形のものへと変更を受けている。

▲輸出仕様のメーターは、国内仕様とはまったく異なるデザイン。シフトインジケーターの類は装備されない。なお、北米仕様とイギリス仕様の速度計は、キロとマイルが併記されている（ほかはkm/h表示のみ）。79年式よりハンドルポストにカバーが装着され（Eのみ）、チョーク機構はキャブ脇からワイヤオペレートになった。  
③④外装も、750と比べると押し強いスタイルリングだ。78年モデルのフェーエルタンクとテールカウルには、側面にリブが設けられた。エンブレムはゴールドのメッキ仕上げだ。



◀軽量化のため、キックスターターを廃した1000のエンジン。カムカバーの飾り蓋（ふた）は、750のアルミ製に対し、スチール製のクロームメッキ仕上げのものが採用されていた。ちなみに79年式より、シリンダーとヘッドが設計変更を受け、さらに耐久性が向上している。

スポーク仕様こそがGSだ!  
大場一男さん

西部警察の影響から、もともとはGS650Gが好きだったという大場さんが、GSつながりで入手したのがこの車両。オリジナルでない部分に気になるため、改めて違うGSを買直そうとも考えていて、現車売ることを思案しているそうだ。価格は45万円応談とのこと。写真では、恥ずかしがってマスクをかぶっているが、本人は気さくな旧車再生趣味人なので、安心(?)されたし。  
☎090-4922-8106  
(12:00~22:00)



## GS1000S



●国内で認可が下りるのはしばらく先だが、GS750/1000ではカウリングを装着して風洞実験も行われていた。それを具現化したのがGS1000Sだ。カラーリングこそ当時のスズキワークスカラー（ウエスカーリーもAMAで搭乗）同様のグラフィックが採用されているが、スタンダード車と比べてもエンジンほかに変更点はない。むしろ、時計や油温計などが計器類に追加され、ツアラー色が強いモデルとなっている。カラーリングは白/青のほか白/赤がある。翌年のマイナーチェンジでは、塗り分けパターンを改めたほか、計器類から時計と油温計が外されている（欧州仕様のみ）。

